

(参考様式2)

令和4年8月3日

出張報告書

津山市議会議員 広谷 桂子

出張日	令和4年8月1日～2日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 (JIAM)
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	令和4年度第2回市町村議会議員特別セミナー (来所による受講)
応対者/講師名	中央大学副学長 磯崎初仁氏、公益財団法人地球環境戦略研究機関 藤野純一氏、関東学院大学法学部純教授 牧瀬稔氏、磐梯町最高デジタル責任者 菅原直敏氏
目的	これからのわがまちの未来と議員に求められる役割について多角的に考える
概要	① 政策に強い議会をつくる～討議する議員・役立つ議会 磯崎初仁氏 ② 市町村における脱炭素のススメ 藤野純一氏 ③ 人口減少時代における地域創生を進めるポイント 牧瀬稔氏 ④ 自治体DXの基本と議会の役割 菅原直敏氏

得られた成果
市政への反映点
今後の課題点
など

地方創生とは、「人口減少の克服」と「地域の活性化」を目指しているが、国は 2060 年に想定される人口より 1400 万人の増加を目指していることを最初語られた。しかし 2040 年から 2045 年にかけて 98.9%の自治体で、総人口が減少する。その上、2015 年に比べて 2 割以上減少する自治体は 73.9%もあると語られた。その将来人口推計で考えると、以前『消滅可能性都市』と大きくクローズアップされたことがある。決して他人ごとではないが、すでに人口は減り始めている。津山市の合計特殊出生率は、平成 28 年で 1.62 となっている。確実に人口は減少し続けていることにはかならない。そこで磯崎氏の人口増加の取り組みとして、①夫婦に現状よりも一子以上産んでもらう②独身者に結婚してもらい、また、死亡数の減少の取り組みでは、①高齢者に元気で長生きしてもらい②5～14 歳の不慮の事故と悪性新生物（癌）、自殺を無くしていくことも自然増を高めることに繋がる。その上で転入増加を図る取り組みを進める。転入増加の取り組みは、少し過激な論調で、『人口を獲得するために奪う地域を明確にして地方創生をしている』とか『人口を獲得するために奪う対象層を明確にして地方創生をしている』と語られた。確かにターゲットを絞ることで、対象となった方のニーズをしっかりとリサーチして、課題を明確に出来るのではないかと考えられる。その落とし穴として、例えば『子育て世帯』にターゲットを絞っているとすると、それは大きなミスとなる。なぜなら、子育て世帯といっても子どもの年齢が 0 才か 18 才では大きく違うから。子どもの年齢で区切るとすると、5 歳間隔が望ましいらしい。改めて津山市の取り組みはどうなっているかを確かめておきたい。また、続々と UJ ターン者が増加するような津山となっていくように、魅力あふれる街づくりは欠かせないと感じた。

最後に『創生』とは、作り出すこと、初めて生み出すこと、初めて作ることという意味がある。つまり、地方創生とは、地方自治体が、従前と違う初めてのことを実施していく。あるいは他の自治体と違う初めてのことに取り組んでいく、ということだと語られた。他の自治体の事例を追いかけていくのではなく、独自の路線で地方創生で生き残れる『津山市』となるよう、知恵を絞って参りたい。

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。